



神苑の決意

主張

安倍政権の終焉を見据えて―荒廃した政治・経済・社会・人心の回復

「神苑の決意」 主筆 木川智

本号の内容

〔主張〕安倍政権の終焉を見据えて―荒廃した政治・経済・社会・人心の回復（木川智）：1 / 〔解説〕南スーダンPKO自衛隊日報隠蔽問題を糾弾する―安保法（改正PKO法）の即時撤廃を―（西山徹）：3 / 〔連載〕アジア放浪記―歴史を掘り起こし日本を見る③（仲村之菊）：5 / 〔連載〕『倭姫命世記』を読み解く⑦ 同床共殿の神勅（柳凜）：7 / 活動報告：9 / 談話室（高井七海）：15 / 花瑛塾日誌：16 / 編集後記：16

頒価：1部 1000円
（別途送料 160円）

七月一五日・一六日に行われたANNの世論調査の結果、安倍晋三内閣の支持率が二九・二％に下落し、前回比マイナス八・七ポイントとなったと報じられている。不支持率は五四・五％にまで達し、前回比一二・九ポイントの上昇となったようだ。

さらに二日に投開票された東京都議会議員選挙では、都議会自民党が議席を半数以下に減らす歴史的な大敗を喫した。

安倍政権にとって支持率は頼みの綱であった。首相・安倍は、国会審議の場で野党から厳しい追及を受けると、自らの高い支持率をひけらかし、「政権は有権者に支持されてい

る、それゆえ野党の追及は意味がない」とばかりに居直り、悪政・無法の限りを尽くしてきた。しかしそれももう通用しない。八月初頭に予定されている内閣改造などにより支持率が一時的に持ち直すこともあるだろうが、そう遠くない将来、安倍政権は終焉を迎えることになる。自党内でもポスト安倍の動きがにわかに活発化しているといわれている。私たち有権者も安倍政権の終焉を見据え、政治が新たに進むべき道を考える必要がある。

「ポスト安倍」の前に

無論、あらゆる虚言を吐き、甘言を弄してきたのが首相・安倍である。給付金のばらまきなど、政権延命のためなりふり構わぬ政策を行う可能性もある。加計問題などの疑惑も「問題ない」と誤魔化し続けるかもしれない。安倍政権への追及の手は緩めてはならない。それでもなお、安倍政権が末期を迎えていることは間違いない。その終焉を見据え、政治が新しく進むべき道を考えるにあたり、安倍政権が行ってきた悪政・無法をあらためて確認し、まずは荒廃しきった政治・経済・社会・人心をロールバックする「非生産的」な務めを果たす覚悟が私たちには求められている。